

スコアシート		実施設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質						3.2	
Q1 室内環境			0.40		-	4.0	
1 音環境		3.0	0.15	3.3	1.00	3.2	
1.1 室内騒音レベル	-	3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2 遮音		3.0	0.50	3.6	0.50		
1 開口部遮音性能	専有部分:T-2以上	3.0	1.00	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能	-	-	-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音	-	-	-	-	-		
2 温熱環境		2.6	0.35	5.0	1.00	4.7	
2.1 室温制御		3.0	0.50	5.0	1.00		
1 室温	-	3.0	0.63	-	-		
2 外皮性能	断熱等性能等級5	3.0	0.38	5.0	1.00		
3 ゾーン別制御性	-	-	-	-	-		
2.2 湿度制御	-	1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式	-	3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境		2.3	0.25	4.0	1.00	3.8	
3.1 昼光利用		1.8	0.30	4.0	0.50		
1 昼光率	専有部分:2.0%以上(E1タイプ)	1.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口	-	-	-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備	-	3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.50		
1 昼光制御	レースカーテンと庇(バルコニー)で昼光制御	2.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度	-	3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御	-	3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境		3.6	0.25	3.6	1.00	3.6	
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63		
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用	4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38		
1 換気量	-	3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能	-	-	-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮	-	3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理		-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視	-	-	-	-	-		
2 喫煙の制御	-	-	-	-	-		
Q2 サービス性能			0.30		-	2.8	
1 機能性		2.4	0.40	2.6	1.00	2.5	
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60		
1 広さ・収納性	-	-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応	-	-	-	3.0	1.00		
3 バリアフリー計画	-	3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40		
1 広さ感・景観	-	-	-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース	-	-	-	-	-		
3 内装計画	-	1.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計	-	3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30		-	3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.5	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数	住宅性能評価における劣化対策等級3	5.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	2.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:PEP(B)、排水:VP(B)、消火:SGP(C)	5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		2.8	0.20	-	-		
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備	-	2.0	0.20	-	-		
3 電気設備	-	3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備	-	3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			-	-	3.2	0.50	
1 階高のゆとり	住宅部分:階高2.90m以上		1.0	-	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	-		1.0	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱等性能等級5		4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用	-		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI=0.76		4.4	0.50	-	-	4.4
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
集合住宅の評価			4.4	1.00	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-		-	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS下地を採用		4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	LCCO2排出率74%		4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの一部を満たし、広告物照明不使用		4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		-	○	○	○	-	○	-	-	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	-	-	-	-	○	-	○	-	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0		-	-	2.0	-	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	1.0	-	1.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0		1.0	-	-	3.0	1.0	-	-	1.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.6	窓の日射熱取得率(η)	0.5
U値(W/m ² K)	窓システム -	屋根	0.4
		外壁	0.6
		床	0.5
住戸部分	窓システムU値 0.4	外皮UA値 0.4	η AC 1.4
			η AH 1.4

3.1.1 昼光率

昼光率 2.9%

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口面積率 3.3%

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース 0.0m²/人 病床 0.0m²/床 シングル 0.0m² ツイン 0.0m²

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 0.0 VA/m²

1.2.1 広さ感・景観

天井高 2.45 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 75 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 2.91 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 56.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m²

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 33% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 56% 水平投影面積率 8% 地表面対策面積率 12% 舗装面積率 0%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m - 断熱等性能等級 等級5 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年m² 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

太陽光 0.0kW 太陽熱等 0.0kW 蓄電池 0.0kW

3 設備システムの効率化

非住宅部分

BEI/BEI_m 再エネ有 - 無 - オフサイト再エネ有 - -

集合住宅の評価

一次エネ削減率 再エネ有 24% 無 24%

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 131% 隣棟間隔指標R_w 0.62

地表面対策面積率 24.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%

見付面積S_b 900m² 卓越風向と直交する最大敷地幅W_s 45.52 m 基準高さH_b 15.04 m緑地 m² 水面 m² 保水性対策面 m² 高反射対策面 m² 再帰性反射対策面 m²